

世界史研究推進委員会

共同研究 「高大連携の試み」 および 「世界史への興味

・ 関心を育む教材・指導法の研究」 経過報告

横浜市立東高校 智野豊彦

ここ数年継続して取り組んできた夏季の高大連携事業ですが、参加する生徒も栄光学園以外からも、多数参加してもらえようになってきました。今年は、大阪大学だけでなく、東京大学や日本学術振興会の方にも授業を行っていただきました。多くの生徒が先生方に質問に來られ、昼食がゆっくりとれないという嬉しい悲鳴がありがりました。午後の教員の研究会では、他都府県の教員や大学・教育関係者の方にも参加して頂き、熱心な討議を行うことができました。定着してきた高大連携事業を、より改善し継続していきたいと思えます。また、毎年会場を提供していただいている栄光学園のご理解と協力に感謝しております。

夏におこなわれた全国歴史教育研究協議会第五十回大会（東京大会）には、シンポジウムに小林克則（前・厚木商業高校が、分科会には西浜吉晴（大和高校）が報告しました。また五月に大阪大学で開催されたアジア世界史学会（AAWH）の第一回会議において、日本史の児玉祥一（上鶴間高校）とともに、世界史からは杉山登（逗子開成高校）・澤野理（川崎工業高校）・石橋功（藤沢総合高校）が、英語で報告をしました。そのほか

にも様々な学会・研究会に委員が参加して研修成果を持ち帰り、共有ようと試みています。

社会科学部会の研究大会では、若手の新しい委員による発表があり、若返りをはかっています。

秋季研究大会、および春季研究大会での発表は次の通りです。

秋季研究大会

「国家・民族・人種―新しい歴史を教える視点とは―」

（藤沢総合高校 石橋功）

春季研究大会

「サーマーン朝の“独立”」

（桐蔭学園 柴泰登）

「フィヒテとその時代―入試問題を利用し歴史に踏み込ませる―」

（栄光学園中・高校 福本淳）

二〇〇八年に発刊した『世界史をどう教えるか―歴史学の進展と教科書―』（山川出版社）も、他県では読書会を行っている研究グループもありなど、日ごろのわれわれの地道な研修成果を高く評価していただいております。これからも授業改善につながる研究活動を目指してゆきたいと思えますので、教材の一つとしてご活用ください。

最後に、本年度の推進委員会は、神奈川県民センター、藤沢総合高校にて行いました。会場を提供していただいた関係各位のご理解とご協力に感謝申し上げます。